

「我が国の国際競争力を強化するための
ICT 研究開発・標準化戦略（案）」の変更点

はじめに

p.1 図 A

(修正前) グラフ横軸の最新年が 2007 年

(修正後) グラフ横軸の最新年が 2008 年

p.1 4 行目

(修正前) ~ 我が国の国際競争力を強化するための研究開発・標準化戦略の策定
に向けて ~

(修正後) ~ 我が国の国際競争力を強化するための ICT 研究開発・標準化戦略の
策定に向けて ~

p.5 25 行目(下から 2 行目)

(修正前) 第 1 部において研究開発戦略を、

(修正後) 第 1 部において研究開発戦略について、

p.5 26 行目(最終行)

(修正前) 知的財産戦略について、述べていく。

(修正後) 知的財産戦略について、それぞれ述べていく。

第 1 部

p.8 2 ~ 3 行目

(修正前) 前節でも触れたが、

(修正後) 「はじめに」でも触れたが、

p.11 27 行目(下から 4 行目)

(修正前) 徹底を図っていることに加え、8 分野ごとにさらに「分野別推進戦略」を策
定し、

(修正後) 徹底を図るとともに、分野ごとに「分野別推進戦略」を策定し、

p.11 29 行目(下から 2 行目)

(修正前) 各課題に研究開発目標及び成果目標を

(修正後) 各課題の研究開発目標及び成果目標を

p.17 図 2 - 1 - 5 の説明

(修正前) 平成 20 年度における主な研究開発事業

(修正後) 平成 20 年度における総務省の主な研究開発事業

p.17 5～6行目

(修正前) 国家的な技術課題を委託により実施する研究開発を実施している。

(修正後) 国家的な技術課題の研究開発を委託により実施している。

p.17 7行目

(修正前) 平成 15 年度より開始しているが、

(修正後) 平成 15 年度より開始しており、

p.30 37 行目(下から5行目)

(修正前) 我が国全体として重点的に取り組む課題を抽出するとともに、

(修正後) 我が国全体として重点的に取り組むべき課題を抽出するとともに、

p.30 38 行目(下から4行目)

(修正前) 政府が重点的に取り組むべき課題を抽出することとした。

(修正後) 政府が今後一層重点的に取り組むべき課題を抽出することとした。

p.32 18 行目

(修正前) (B)政府として重点的に取り組むべき課題

(修正後) (B)政府が今後一層重点的に取り組むべき課題

p.33 15 行目

(修正前) (ア)国際競争力強化のための重点研究課題(12 課題)

(修正後) (ア)国際競争力強化のための重点研究開発課題(12 課題)

p.33 29 行目

(修正前) (イ)社会・生活基盤の充実のための重点研究課題(7 課題)

(修正後) (イ)社会・生活基盤の充実のための重点研究開発課題(7 課題)

p.33 38 行目(下から5行目)

(修正前) (B)政府が重点的に取り組むべき課題

(修正後) (B)政府が今後一層重点的に取り組むべき課題

p.35 25 行目

(修正前) 世界で 2.5 兆円(2011 年)である。

(修正後) 世界で 2.4 兆円(2011 年)である。

p.45 23 行目

(修正前) 確実かつ安全な流通を可能とする新世代宇宙通信ネットワーク技術である。

(修正後) 確実かつ安全な流通を可能とする、地上通信システムとの連携のとれた新世代宇宙通信ネットワーク技術である。

p.53 20 行目

(修正前) 国内で 500 億円規模(2015 年)、

(修正後) 国内で 600 億円規模(2015 年)、

p.81 11 行目

(修正前) 世界で約 8,000 億円 (2007 年)と予想される。

(修正後) 世界で約 8,000 億円 (2010 年)と予想される。

p.126 27～28 行目(下から9～8行目)

(修正前) 研究開発の効率的の可能性や

(修正後) 研究開発のさらなる効率化の可能性や

p.127 35 行目(下から2行目)

(修正前) 新たなフォーラム等の設立 (例:超臨場感コミュニケーション、新世代ネットワーク技術)

(修正後) 新たなフォーラム等の設立

p.128 21 行目

(修正前) ・高能力な外国人技術者・研究者の受け入れ・活用

(修正後) ・能力の高い外国人技術者・研究者の受け入れ・活用

p.130 20～21 行目

(修正前) 普及活動を効率的に行っているが、

(修正後) 普及活動を効率的に行うよう取り組んでいるところであるが、

このほか、p.38、40、41、43、47、49～52、55、56、59～61、64～69、73～78、82、83、85、86、89～95、98～102、105、107～109、112、116 のロードマップについて、吹き出しの対象年を正確にする、吹き出しを追加する、研究段階のフェーズを正確にする等の修正を行った。

第2部

p.136 13～14行目

(修正前) その結果、国内市場では新たなICTサービスの導入・展開が迅速に可能な環境が整っており、

(修正後) その結果、国内市場では迅速に新たなICTサービスの導入・展開が可能な環境が整っており、

p.148 25～26行目

(修正前) 教育機関としての大学の機能も有効に活用していくべきである。

(修正後) その際には、教育機関としての大学の機能も有効に活用していくべきである。

p.148 31行目

(修正前) 不可欠となっており、他国との共同実証実験等を通じて、

(修正後) 不可欠となっている。そのためには、他国との共同実証実験等を通じて、

p.149 3～4行目

(修正前) 連携に取り組むことが必要であり、そのためにも、

(修正後) 連携に取り組むことが必要である。そのためにも、

p.149 19行目

(修正前) 国際競争力の強化 = 収益の拡大

(修正後) 「国際競争力の強化 = 収益の拡大」

p.153 8～9行目

(修正前) このような考えをもとに、一つのICT市場は、ある分野の技術を結集させて、その実用化によって創出される市場であると捉え、以下の重点技術分野10分野について国際標準化に戦略的に取り組んで行くことが必要である。

(修正後) このような考えをもとに、以下のとおり、国際標準化に戦略的に取り組んでいくべき重点技術分野10分野を選定した。

p.154 6行目

(修正前) 下記の視点を踏まえて、標準化課題の抽出、見直しに取り組むことが必要である。

(修正後) 下記の視点を踏まえて、抽出、見直しに取り組むことが必要である。

p.165 10 行目ほか

(修正前) ICT標準化開発プロジェクト

(修正後) ICT標準開発プロジェクト

p.165 31 行目

(修正前) 実証実験において、国際標準

(修正後) 実証実験を通じ、国際標準

p.165 33 行目

(修正前) 製品開発の促進を図り、その標準及び知的財産価値を高める

(修正後) 製品開発の促進を図り、標準及び知的財産価値を高める

p.167 5 行目

(修正前) 研究開発、知的財産、標準化戦略

(修正後) 研究開発・標準化・知的財産戦略

p.167 15 行目

(修正前) 重点分野

(修正後) 重点技術分野

p.170 14 行目

(修正前) 現在、SCOPE 等の研究開発の中で作成された

(修正後) 現在、国からの委託研究の中で作成された

p.170 17～18 行目

(修正前) 有効活用するための方策及び必要な制度面の検討

(修正後) 有効活用するための方策の検討

p.172 4 行目

(修正前) ICT 重点分野

(修正後) 重点技術分野

p.173 11～12 行目

(修正前) 研究開発・国際標準化・知的財産戦略

(修正後) 研究開発・標準化・知的財産戦略

p.175 29 行目

(修正前) ICT標準化開発プロジェクトに参画するメンバ(規格策定メンバ)を検討する段階

(修正後) ICT標準開発プロジェクトを検討する段階

p.178 6 行目

(修正前) 技術分野が特定

(修正後) 技術分野を特定

p.181 10 行目

(修正前) 標準開発プロジェクトのメンバ(規格策定メンバ)選定

(修正後) 標準開発プロジェクトの検討

p.182 9 行目

(修正前) 連携先(アライアンス先)の検討や国家プロジェクトのメンバ選定等

(修正後) 連携先(アライアンス先)の検討等

p.187 11～12 行目

(修正前) 専念する場合とがある

(修正後) 専念する場合がある

p.187 19 行目

(修正前) 育成コースにおける先生・指導者

(修正後) 育成コースにおける講師・指導者

p.188 5、7 行目

(修正前) リーダー

(修正後) リーダー達

p.188 22～23 行目

(修正前) 肩書きである「標準化エキスパート」に選定

(修正後) 肩書きであることが必要である。また、「標準化エキスパート」に選定

p.190 13～15 行目

(修正前) 中心的役割を果たすことが期待される。

(修正後) 中心的役割を果たすことが期待される。また、標準化作業の代行業務において、これらの専門家を活用することも一案である。

p.190 26 行目

(追記後) 標準化作業の代行業務に標準化人材を派遣する仕組み(仕組みの必要性も含む)

p.192 表5.1

(修正前) ICT標準化・知財センター経費

(修正後) ICT標準化・知財センター経費など

p.194 27 行目

(修正前) コースの育成期間(例えば、2年間)

(修正後) コースの育成期間

p.196 5 行目

(修正前) ガイドラインまでを添付

(修正後) ガイドラインの雛形を参考資料として添付

p.197 10 行目

(修正前) 策定された「ICT国際競争力強化プログラム」(平成19年5月23日)のうち

(修正後) 「ICT国際競争力強化プログラム」(平成19年5月23日)を策定し、その中の

p.204 5 行目

(修正前) 現在の欧米企業で実行されている、

(修正後) 現在の欧米企業のように、

p.206 18 行目

(修正前) 電気通信分野の国際標準化

(修正後) ICT分野の国際標準化

第7章中

(修正前) 対策

(修正後) 対策

第7章中

(修正前) 対策

(修正後) 対策

第7章中

(修正前) 対策

(修正後) 対策

第7章中

(修正前) 対策

(修正後) 対策

第7章中

(修正前) 対策

(修正後) 対策

p.216 14～15行目

(修正前) 以下を目的とする

(修正後) 以下の事項等を目的とする

p.230 4行目

(修正前) 先導した役割

(修正後) 先導的な役割

p.234 2行目

(修正前) 標準化、知財に係る諸活動

(修正後) 標準化、知的財産に係る諸活動

p.240 6行目

(修正前) 有効活用するための方策や必要な制度面の検討。

(修正後) 有効活用するための方策の検討。

p.240 7行目

(追記後) (4) 標準化作業の代行業務に標準化人材を派遣する仕組みについて、その必要性も含めた検討。